

小学3年・国語、校内学習 コロナ禍におけるディベート活動

フランス・パリ日本人学校

I 前提

学校環境

- » 校内 Wi-Fi 設置
- » マグネット式スクリーンとプロジェクター設置
- » 大型液晶ディスプレーと EZCast Pro 導入
- » タブレット端末導入

課題と目標

<課題>

新型コロナウイルスの影響で活動に規制がかかるなか、ICT 機器を活用し、安全に配慮をしてディベート活動をおこなう。

<目標>

- » Zoom を使って2教室にわかった児童を繋ぎ、互いにディベートをおこなう。
- » 視聴する側はただ視聴するだけでなく、進行役を務めたり、最終的に結審を行ったりができるように発表側の取り組む姿勢を注視する。
- » 他のグループのディベートの様子を見ることで、自分たちがディベートをおこなう際の手本にしたり、反省の材料にしたりできるようにする。

2 実践の内容

活用した ICT ツール

ICT 機器	PC、プロジェクター、マグネット式スクリーンを2教室分各1台ずつ（映像配信用）タブレット端末、EZCast Pro を2教室分各1台ずつ（資料配布用）
ネットワーク	校内 Wi-Fi
使用アプリ	Zoom
その他	ディベートのルール表など見せたい資料をデータ化してタブレットへ保存しておく

具体的な活用方法

1. ディベートのルールを確認する

互いの教室の状況（映像）が見られるように、各教室の黒板にはマグネット式スクリーンを貼り、プロジェクターと PC を設置しておく。

教師は片方の教室でディベートのルール表をスクリーンに映すなどしてディベートのポイントや本時の学習の流れを説明し、その映像をもう一方の教室に Zoom を使用して中継する。※図1

2.一方の教室でディベートをおこなう

片方の教室でおこなわれているディベートの様子を Zoom でもう一方の教室のスクリーンに映し出す。

その際、もう一方の教室にいる児童は進行役として指名したり、審判役として納得できる意見や話し合いに臨む姿勢を観察したりする。

ディベートの最後に審判役の児童が講評を行い、勝敗を発表する。



図1

その後両方の教室でディベートの振り返りをワークシートに記述し、次回のディベートにいかす点を明確にする。※図2

教師は児童が記入したワークシートを別の教室にいる児童に提示をするため、ワークシートをタブレット端末で撮影し、EZCastPro を使用して別教室のスクリーンに映す。

3.2 と同じ流れでもう一方の教室でディベートをおこなう

※中継される音声が聞こえやすく、また自分たちの音声をひろいややすくするため集音マイクを設置したり、ディベート時の座席を工夫したりするなど、状況に応じて環境を整えるとよりスムーズに活動できるだろう。

4. 講評を受ける

教師からディベート全体を通した講評を受ける。



図2

3 成果

ICT ツールを活用したことでできるようになったこと

ノートパソコンとプロジェクターとスクリーンを活用し、他の教室と中継することで、3密を避けてソーシャルディスタンスを保ちながら安全に学習できることがわかった。中継されたディベートの様子は安全に観察することができるので、自分たちのディベートにいかすことができた。また、別の教室にいる児童とも感想を伝え合うこともできたのでより学びを深めることができた。

タブレット端末と EZCastPro を活用することで、タブレット端末で撮影した画像を瞬時にプロジェクターを通して各教室のスクリーンに映し出すことができた。それによって他の児童の振り返りなどの課題を別の教室にいながらも共有でき、自分たちのディベートにいかすことができた。

教室を中継できたり、課題などを瞬時に提示（共有）できたりすることで、教師がその場に居なくとも的確に指示を出せ学習をおこなえることがわかった。よって、今後使い方次第では安全対策以外にも空間を超えての授業ができると考える。

児童生徒、教師、保護者の反応

児童はディベートの様子を PC で視聴したが、集中して話し合いを聞くことができた。